

令和3年度第1回洞爺湖町学校給食センターに係る検討委員会（議事録）

日 時：令和3年6月25日 金曜日 午後6時30分～午後8時25分

場 所：洞爺湖町役場3階 防災研修ホール

出席委員：虻田小学校校長 小野島 晶、洞爺湖温泉小学校校長 柿崎 秀顕

洞爺中学校校長 菅林 秀樹、虻田小学校PTA会長 葛 和佳、

とうや小学校PTA会長 寺嶋 政明、洞爺中学校PTA会長 福島 正和

洞爺中学校PTA会長 村上 友和、本町5区自治会長 石川 諭、

成香自治会長 小山 一典、公募委員 矢野 克典

欠席委員：洞爺湖温泉小学校PTA会長 鈴木 勝伍

教育委員会（事務局）：皆見亨教育長、末永弘幸所長、青葉文夫主査、森糸麻衣子主任、天

野英樹主査、佐藤正施設管理員、藤田早苗栄養教諭、佐藤のどか栄養教諭

午後6時30分開会

○事務局

皆さんお揃いになりましたので、会議に先立ち「委嘱状の交付」をさせて頂く。

コロナ禍の状況ですので、みなさまの机に置かせて頂いておりますのでご理解をお願いする。では、令和3年度第1回洞爺湖町学校給食センターに係る検討委員会を開催します。開催に先立ち教育長よりご挨拶申し上げます。

○教育長挨拶

本日は、お忙しい中、お集まりいただき感謝いたします。

旧虻田町、旧洞爺村が合併し年数が経っているが、未だに2施設での運営を行っている。合併当初の「合併協定書」では、「給食センターについては、現状のまま新町に引き継ぎ、当面は2箇所での運営とするが、施設の老朽化や経費の節減のため、1箇所に統合して行く事が望ましいので、新町において統合を検討する。」となっておりましたが、現在まで2施設で運営してきたことから、今回統合を含めた今後の給食センターの方向性を検討していただくべく、検討委員会を設置し、今後の給食センターの在り方の提言を賜りますようお願いする。

○事務局

この度、検討委員会の委員をお引き受け頂いた委員の方をご紹介します。

（検討委員紹介）

次に、事務局をご紹介します。

（事務局紹介）

○事務局

では、早速ですが、議事に入りますが、委員長が決まるまで私の方で進めさせて頂く。

議事（１）洞爺湖町学校給食センターに係る検討委員会設置要綱について説明

議事（２）委員長、副委員長の選出についてですが（別紙資料１説明）、自薦、他薦等ありますか。

（「事務局一任」の声あり。）

（「異議なし」の声あり。）

では事務局案でよろしいですか。

（「良い」の声あり。）

それでは、事務局案で委員長には洞爺湖温泉小学校柿崎校長、副委員長にはとうや小学校の寺嶋PTA会長をお願いします。

この先、委員長に前の席に移動頂き議事進行をお願いします。

○委員長

委員長に選出された、柿崎です。今後の給食センターの在り方について委員の皆さん検討の程よろしく願います。

では、議事（３）提言の取りまとめについて、事務局より説明をお願いします。

○事務局

この度、学校給食センターの課題に関する調査検討を行って頂くため、検討委員会を設置し、お集まりいただいた。学校給食センターの今後の方向性に係る提言の取りまとめについて、委員の皆様をお願いします。願います内容については、会議資料に載せている給食センターの課題に関する調査検討、今後の方向性です。

○教育長

依頼文書を読み上げ後、委員長に手交。

○事務局

ありがとうございました。

○委員長

議事に入ります。議事の内容については議事（４）スケジュールから（９）洞爺湖町学校給食センターに係る比較検討までを一通りの説明を受けた後、質疑を受けたいと思います。議事進行にご協力願います。

では、事務局より（４）スケジュールから（９）比較検討まで説明をお願いします。

○事務局

議事（４）スケジュールについて（議案書３p）説明

議事（５）洞爺湖町学校給食センター（虻田給食センター・洞爺給食センター）の統合を含めた今後の方向性の検討の必要性（背景）について（議案書４～５p、別紙資料２、３）説明

議事（６）提言の取りまとめに向けた検討委員会の進め方について（議案書５p）説明

議事（７）検討に当たっての視点・考え方について（議案書６p～７p）説明

議事（８）洞爺湖町学校給食センターの現状について（議案書７p、別紙資料４～８）

説明

議事（9）洞爺湖町学校給食センターに係る比較検討資料について（議案書7p、別紙資料9）説明

その他、参考資料として、別紙、学校給食法、学校給食衛生管理基準、学校給食実施基準を添付しておりますのでご確認下さい。

○委員長

ありがとうございました。事務局より説明は終わりました。

委員のみなさんご質問ありますか。

○委員

調理を直営でやり、雇用維持確保との事であるが。

○事務局

官公庁で実施しているものと、民間で実施している場合では、委託にした場合は経費の削減につながるのではと想定はするが、実際、費用の試算はしていないが、他の町の話を知るとうちの町の調理場の規模では割高になる可能性が高い。

もう一点、実際に豊浦町と伊達市では委託としているが、細心の注意を払い調理員が調理をしているが、異物混入等があった場合、直営だとセンター長の私の方から、調理員に改善点の聞き取り等が出来るが、委託の場合、委託先代表に話をしてそちらから、調理員に知らせる事となる。あつてはならない事ではあるが、近年のコロナウイルスなどの対応もある事から注意が必要である。

現調理員の雇用、配送業者の経営安定などの視点からも、これまで同様直営としたい。

○事務局

補足をさせて頂く。

委託については、今現在私どもは考えていない。今後、給食センターを運営して行く中で委託がよいのではないかとこの話は出て来るかもしれないが、それは、その時になってから。現時点では、あくまでも洞爺湖町に2つある給食センターをどうしなければならないのか、まず、そこをクリアして次のステージとして委託と言う事になると思う。

○委員

虻田・洞爺を改築した場合の比較検討があるが、実際に洞爺で虻田の分も作る事は可能か。

○事務局

厨房面積だとか、処理能力だとか洞爺の場合、今のままだと処理できない。いま、550食必要なので。洞爺が処理能力300食なので250食をどうするか。そのためには、改修をしないとイケない。次回に、どの程度の金額になるかお示しをしたい。概算的なものを示す。また、2時間以内の喫食という事もあるのでその辺も考えなければ。

○委員

この問題は、洞爺湖町が合併し出来たときからの問題。この問題をどうするかという事

が現実にある。虻田37年、洞爺21年と建物自体は100年持つわけです。そしたら、100年持たせるためにはどうするか。設備は何年もつか、そういう細かい検討も必要では。逆に、建物を壊した場合その費用はいくら位掛かるのか、廃材をどうするのか、30年しか持たない建物は無いわけですね。最終的に長期的な物がよいのではないかと。

○事務局

いまのご意見、まったくだと思います。虻田を活用するか、それとも洞爺を活用するか、まず、この2点に絞らせて頂きたいのですが、洞爺を活用する場合、先ほど質問があった食数をどう確保する施設を増築してさらに設備も増設しなければいけない。そのお金がかかる。虻田は能力はあるが、新しい衛生基準ということがあり、新しく作る場合は、又は改修する場合はそういった設備を今ないけれども、設けて下さいといった事にお金がかかる。

現在は保健所からこれでいいとのことですが、新しく改修する場合は新基準にして直して下さいという指示が来ます。100年もたせる事は本当に大事な事だと思います。改修を行うに当たってはその辺も見極めた上で改修を行わなければならないと思う。改修に際してどういところを改修するのか次回にお示したい。

○委員

それにあわせてなのですが、災害時の関係はハザードマップで判断しているんだろうが、範囲はどこからどこまでか。

○事務局

次回お示しする。

○委員

それと、町有地で空いている所もあれば示して貰えればと思う。

○事務局

判りました。

○委員

△△さんと同じで食数は判りましたが、通行に関して洞爺地区に通う場合の食材や配送はどうなるのか。

○事務局

配送については、現在虻田・洞爺各センターで各1台の車両で所管校に届けているが、今後、一か所になった場合には洞爺系統、虻田系統の2台2系統体制で行う。調理後2時間喫食に対応可能なように、学校と時間設定をさせて頂く。

○委員

今の保温関係と変わらない感じか。

○事務局

保温機能の良い容器にして、冷たい物は冷たい状態で、保冷剤を入れて運ぶ。現在、温泉小学校まで配送しているが、虻田の車両は冷蔵機能付き車両である。洞爺は各学校が近いので、そのような機能は無い。今後、虻田～洞爺約20分～30分の配送時間も虻田同

様の車両機能で対応したいと考えている。

○委員

わかりました。

○委員長

他ありますか。

○委員

また、いいですか。

場合によっては現状の考えもあるのかなと。温泉小学校の場合、時間的に見ても洞爺からも虻田からもどっこいどっこいかな。給食の食数の均等を図ってそうすると虻田の人員を減らせると思ったりもするが。個々の差が過去にあるんなら、温泉小の分を洞爺で作ってもいいのでは。

○事務局

町村合併がされ新しく洞爺湖町が誕生して15年が経ちますが、その合併の話についてはさまざまな議論がされてきたと認識している。ただ、色んな理由があって統合が望ましいと議論して頂きたい。もちろん、結果的に今のままとの意見もあろうかと思いますが、最終的には私どもとしては、合併当初の協定書に基づいて1箇所と言う形で進めたい思いがあるものですから、ご苦勞をお掛けするところです。

○委員長

他ありますか。

○委員

今後話合って行くと思うが、町財政と言うと判らないんですが、統合して新しいものを造ってもらえるんなら、この近辺の伊達市の給食センターが新しい物を造ったという事で、そこが最新の物が入っていると思う。清掃、配送関係も13校で黄金から長和まで行く訳で、その辺の改善点、メリット・デメリットもあると思うので聞きたい。その辺の判らないメリット・デメリットをセンターは判っていると思うが、厨房で良い物を作りたいと思っているなら、先ほど事務局が言った新衛生基準に適合した良い物、安心・安全な物を造って頂きたい。また、良い物を作るんだと広められる様に、地場産品を使って安心・安全な食べ物の他にも宣伝にもなると思う。是非、そのような物をお願いしたい。

○事務局

近隣の伊達のメリット・デメリットを次回に報告させて頂く。良いもの造るというのは最もだと思う。十分勉強させて頂きながら進めさせて頂く。

○委員

噴火災害については。

○事務局

噴火災害の際の給食センターの在り方ですが、被災者への炊き出しですとか、災害応急対策従事者への給食を担当するという事になります。2000年の有珠山噴火の時ですが、

3月末の噴火の際を確認すると、春休み期間中だったので学校給食はありませんでしたが、その時は3日程昼食と、夕食の炊き出しを虻田給食センターの方で行ったようです。4日目以降は、噴火の位置が変わり給食センターが危険区域になったことから、給食提供は行えず豊浦の給食センターで、豊浦町へ避難した虻田町民の方への対応したようです。その後、豊浦町に避難した児童・生徒についてはプレハブを利用して授業を行っているんですが、4月の下旬だったと思うが、豊浦町の給食センターの方で調理した給食の提供を行ったようです。

あと、炊出しの部分では他の施設からの応援で対応しました。いずれにしろ、今後、委員の指摘の内容も想定されるので、噴火があった場合については、通常の授業というのが行えなくなるのではと想定している。臨時休校になったり、実際には1ヶ月ないし2ヶ月後の授業再開と思われる。

○事務局

万が一、その様な災害があった場合には、セブンイレブンと防災協定を結んでいる。その際はセブンイレブンから対応していただけるはずである。給食センターが1日3食の対応だとか現実的には難しいわけで、災害協定を活用して提供するのが現実的なのかと思う。

また、給食センターで、避難者への食を作るとか法律的なものは何もないので、出来るのであればその様なものも活用して行くのもありだと思う。

○委員長

他ありますか。

○委員

学校給食を食べている立場からすれば、洞爺の給食を食べて私が今まで勤務した中で一番素晴らしい給食だと思う。給食その物に関して歴史があると思う。一つ一つ丁寧に作られ、色々な物があり旧洞爺村の人たちはそれを食べて来たのだと思う。そういう歴史の中で、もし、新しい給食センターになった時に、給食の質が今の状態であればいいなと思う。その辺はどうなのか。

○事務局

給食の質については、洞爺の給食をお褒め頂きありがとうございます。統合したとしても、基本の2菜は基本ラインとして絶対落さないと思っている。今、洞爺地区に限っても虻田地区に限っても地元の物を多く使用するよう努力して、実際多く使っています。ただ、協力頂ける農家さんとか、今まで直接納品頂いていた部分については、使用頻度が下がったり直接納品頂けないなどということはあろうかと思う。給食の質については落とさない様にと教育長、所長の方から指示を受けている事なのでご理解を頂きたい。

○事務局

洞爺湖町、特に洞爺給食センターは様々な努力によって素晴らしい給食提供ができています。これは、新しい形になったとしても継続して取り組んでいく事が第1と考えています。

○委員

僕も、子供のころから小、中学校と洞爺の給食を食べてきて、他からも視察が来るくらい洞爺の給食は有名だった気がします。それは、ただの食事だけではなく、子ども達の成長や健康促進の為に研究し尽くされたメニューが作られていたからです。今、話に出た通り、地元の農家さんだとか財田米を含めて直接購入して、また、それを、取に行ったりだとか、手間暇かけて子ども達の為になる給食を作って頂いていると認識している。地元の食材を活用するという事は、ただ、安心・安全な食べ物を作ると言う事では無く、地域振興にも繋がる。生産者の顔が見える給食が出来ていると思う。いま、出来ているか判らないが、自分の子供が小学校に行っていた時は、各学年で農家さんの所に行って収穫してそれを農家さんと一緒に給食を食べることをやっていました。生産者さんの顔が見える給食に取り組んで欲しいというのはある。コスト運営の(7)(p6)視点・考え方④について、町税の減収が危惧されるとか、事業費の削減を念頭にとかあるが、地元の農産物を効率よく出荷できるシステムができれば、そういう運営費を抑える事が出来ると思いますので、行政だとかJA洞爺湖だとか、胆振噴火湾漁協の方もおりますが、この地域の生産者共々協力してもらって取組を是非ご理解頂ければと思います。すべては、子ども達の為の給食センターであってもらえればいいかな。個人的な思いは施設の集約は僕は賛成です。新しい統一計画と効率的な調理と衛生管理の基準化という事で良い物が出来るという事で、どこで作るかという問題はこれから協議すると思うのですが、自分も微力ながら協力させて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。以上です。

○事務局

先ほどの話にありましたように、我が町には農業あり、漁協ありさまざまな地域資源が沢山あります。それら、食材を使ったおいしい給食を提供して行く事が我々の役目であると思っている。生産者が思いを込めて作った作物、商品等を子供達にその思いというものを伝えていかなければならない、これも、私たちの大きな役割であると思っているので、新しい施設運営の中で取り組んで行く。また、2回目の検討委員会の中でもその辺について議論して頂きたい。

○委員長

他ありますか。

(委員)

(「もう、やめよう」の声あり。)

○委員長

最後に、私から言わせて下さい。いま、洞爺地区の給食が素晴らしいと言うお話がありましたが、虻田地区だって美味しい。僕は空知管内、胆振東部と色んな所を歩いて来た中で、ここの給食は素晴らしいと思います。特に、子どもの事を考えているという事で、その良さをそれぞれ持ち寄ってやった方が良いのかなと思います。また、今後の検討については今日、色んな話が出ましたけれども、順番を追っていかなければ、なんでもやっているとまとまりません。統合してやるという事を決めるとか、あるいは良さをどうしたら良

いか、テーマを絞って話をしていかないと、多分まとまらないんじゃないかと、その辺も
ご協力をお願いします。

○事務局

本日はありがとうございました。

午後8時25分終了。